ぞ、こは犬のしわざ也といへり、

〔嬉遊笑覽方術八〕狐狸のばける古跡人の知たるは、泉州堺の小林寺、釣狐寺、上野國館林茂林寺などなり、これは茶釜も筆跡も今にあれど、伯藏主は只狂言に傳ふるのみにて、其故事おぼつかなし、狐狸の書畫をかけること多く聞ゆ、其角が茶摘集、伊勢國にて狐の人につきて云出たる、仁あれば春もわかやく木の目哉、此狐つき、日比の田夫にてぞ有ける、狐いにて後は無事なりしとなり、其筆跡正之う狐にて侍れば、歌にあやしくたへなるためしにもと書付侍る、元祿元年七月のことにやと有り、此たぐひ又往々あり、予(喜多村信節)も其書畫どもを見しが、狐は書にて狸は畫をかける多し、

〔三養雜記一〕狐狸の書畫

予(山崎美成)かつて狐狸のかきしといへる書畫をこれかれ見たりしに、大かた狐は書、狸は畫なるもをかし、さて老狐幸菴が書をかきたる記事は、藍田文集に見え、蜺菴が般若心經は既に墨帖にありて、予も藏弆せり、狸の畫ける寒山拾得の圖を荻生氏の見せられしことあり、白雲子といふ狸の畫ける蘆鴈の圖、寫山樓(文晁)の藏にあり、これらの書畫は縮寫して、耽奇漫錄中に載せたれば、こゝに出さず、

〔兎園小説五集〕古狸の筆跡　好問堂

世に奇事怪談をいひもて傳ふること、多くは狐狸のみ、貍貉猫の屬ありといへども、これに及ばず、思ふに狐の人を魅す事甚害あり、狸の怪はしからず、かくて古狸のたま〱書畫をよくすること、世人の普くしるところにして、已に白雲子の蘆雁の圖は、寫山樓の藏にあり、良恕のかける寒山の畫は、護園主人示されき、その縮本今載せて耽奇漫錄中に收めたり、これまさしく老狸の畫けるものにして、諸君と共に目擊する所なり、之かるにその書をかけることを予嘗て聞けるは、武州多摩郡國分寺村名主儀兵衛といふ者の家に、狸のかきたりし筆跡あり、三社の託宣にて、